

【調査の目的】

- 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

【調査の概要】

- 実施日：平成31年1月10日(木)
- 「大阪府」とは「大阪・公立学校」の結果を表しています。
- 中学2年の「理科」はA・B2種類の選択問題があり、本市では問題Aを6校(1,107名)が、問題Bを12校(1,655名)が選択しました。
- 中学2年の「社会」はA・B2種類の選択問題があり、本市では全校が問題Aを選択しました。
- * 理科の選択問題については、各学校の間年カリキュラムでの指導内容によって選択しています。
- 実施校数及び実施生徒数 ○学力に関する調査 ○生徒に対するアンケート
- 中学1年：18校(2,636人) 中学1年：国語・数学・英語 全学年・教科で各2問
- 中学2年：18校(2,762人) 中学2年：国語・社会・数学 理科・英語

【調査結果の取扱い】

本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのため、序列化や過度な競争を目的とした取扱いにならないよう十分配慮をお願いいたします。調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要と考えます。

正学年・比較科別(対大阪府)

学年・教科	平成30年度 (点)			
	高槻市	大阪府	差(対大阪府)	
1年	国語	58.9	56.2	+2.7
	数学	64.4	61.3	+3.1
	英語	69.1	62.0	+7.1
2年	国語	60.3	57.0	+3.3
	社会A	55.1	52.6	+2.5
	数学	66.6	61.8	+4.8
	理科A	64.1	56.6	+7.5
	理科B	55.1	53.4	+1.7
英語	58.3	51.3	+7.0	

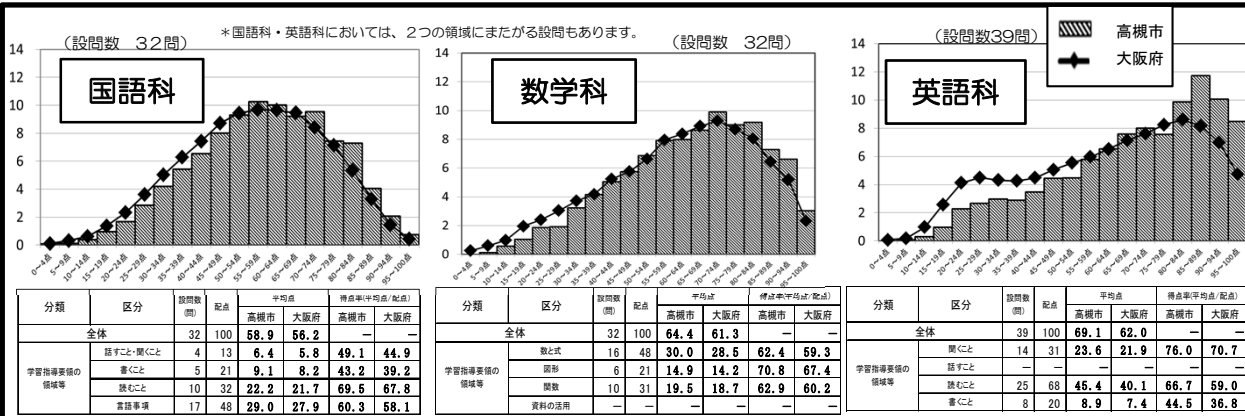
チャレンジテストの検証にかかる高槻市教育努力目標

■確かな学力の育成

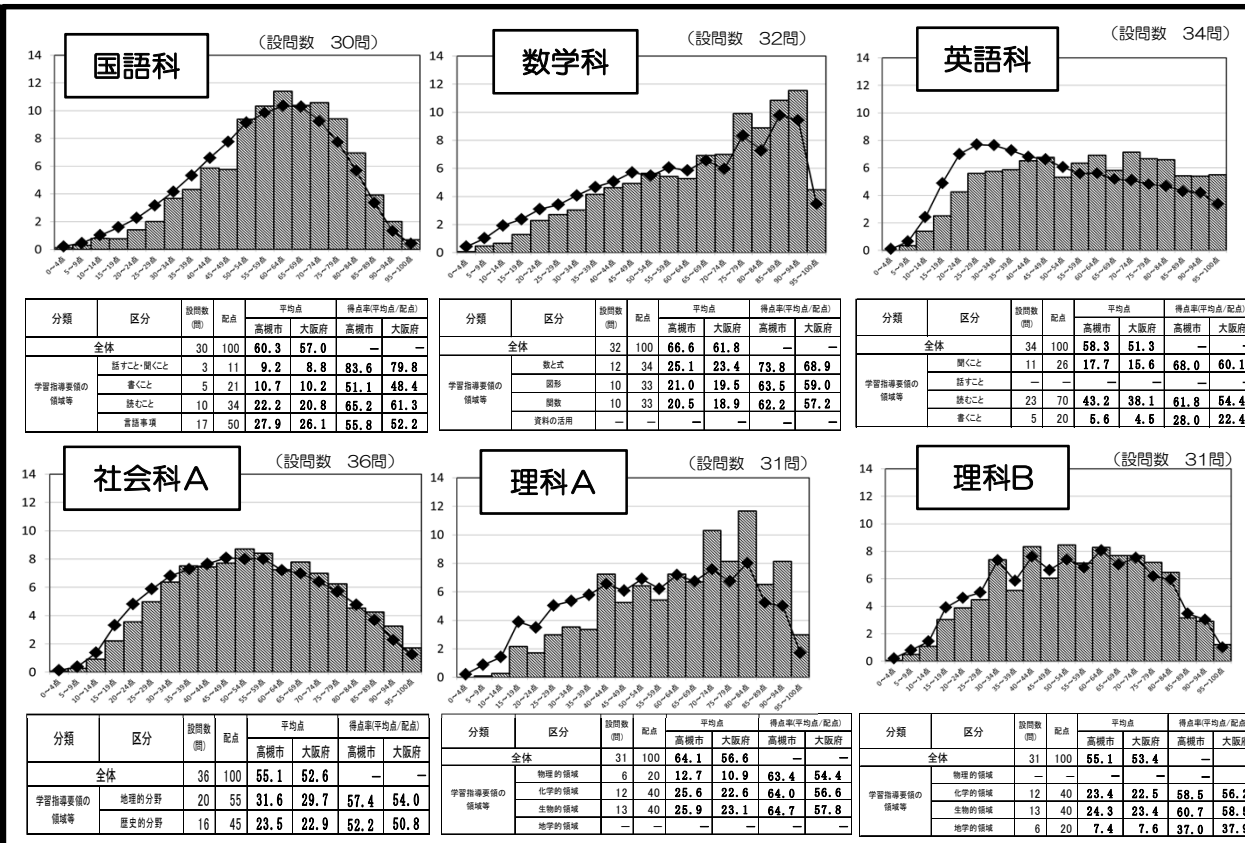
- 小中一貫した学習指導の充実
 - ・小中学校9年間を見通して計画的に学習指導や学習評価を行う。
- きめ細かな学習指導の充実
 - ・児童生徒の学力や学習状況の実態を把握し、組織的・継続的な検証改善サイクルを確立する。
 - ・各教科等における言語活動の充実及び、言語能力育成の中心となる役割を担う国語教育の充実を図る。
- ・基礎的・基本的な知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力等の育成及び学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力を養うため、主体的・対話的な深い学びを促す学習指導を行う。
- 自ら学び続ける力の育成
 - ・小中学校9年間を通して家庭や地域等と連携し、学習習慣の定着や自学自習力を育む。
 - ・各教科や総合的な学習の時間を通して、主体的な問題解決等への態度を育成する。
- 学校図書館を活用した学習活動の推進
 - ・各教科等において、学校図書館の機能を計画的に活用し、児童・生徒の自主的・自発的な学習活動や読書活動を充実する。

得点分布グラフ 横軸：得点(点)、縦軸：割合(%) 領域別平均正答率/ 対大阪府比

第一学年



第二学年

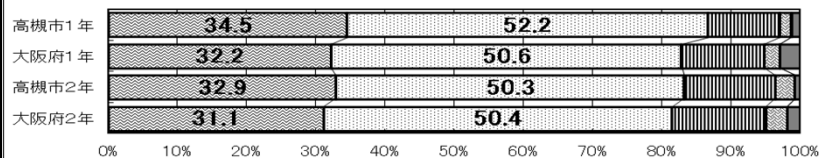


平成30年度中学生チャレンジテスト 生徒に対するアンケートの結果

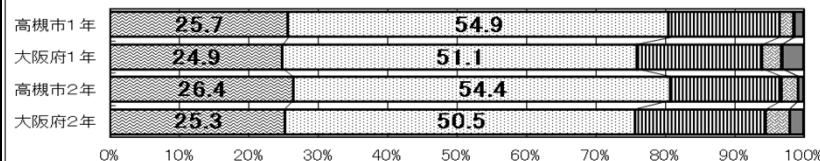
当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない
 その他
 無解答

国語科

国語の授業の内容はよく分かる。

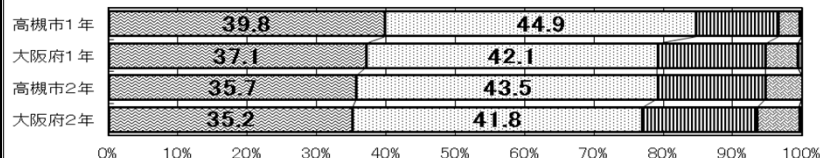


国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている。

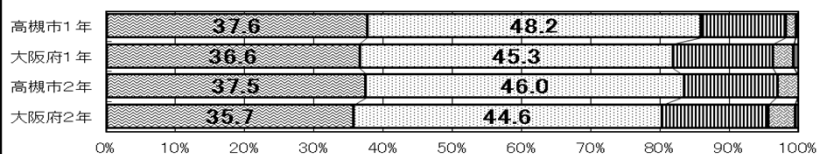


数学科

数学の授業の内容はよく分かる。

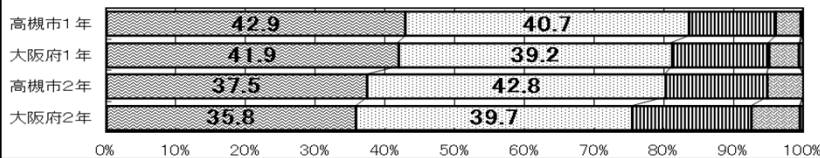


数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。

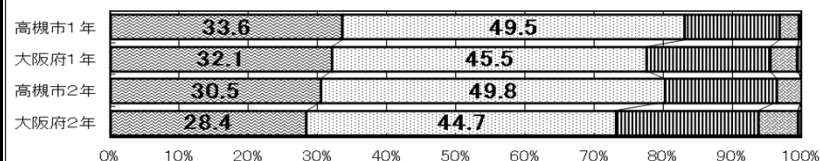


英語科

英語の授業の内容はよく分かる。

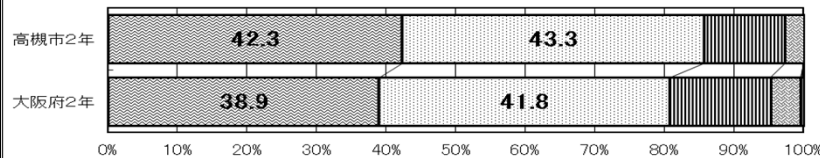


英語の授業で自分の考えを表現するとき、相手に伝わるよう工夫して話したり、書いたりしている。

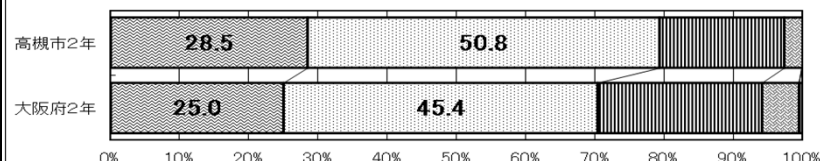


社会科

社会の授業の内容はよく分かる。

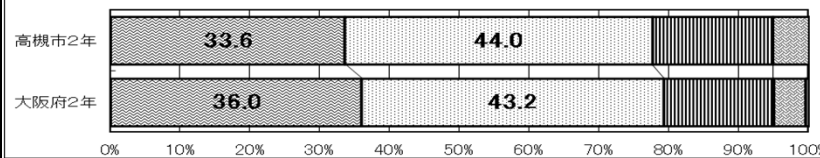


社会の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。

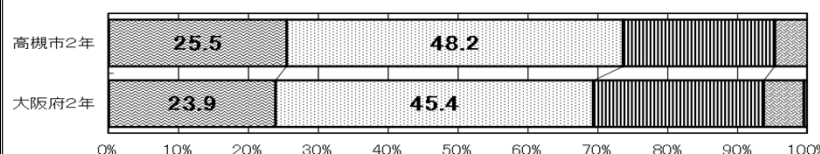


理科

理科の授業の内容はよく分かる。



理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。



【各教科の結果について】

- ・第1学年では、昨年度同様に、3教科ともに調査内の全ての領域・関連において大阪府平均点を上回りました。
- ・第2学年では、理科Bの「地学的領域」で、大阪府の平均点をやや下回っているものの、それ以外の教科では、全ての領域において大阪府平均点を上回りました。

【生徒に対するアンケートの結果について】

- ・1つ目の「授業の内容がよく分かる」の質問において、理科で肯定的な回答が大阪府の平均値をやや下回りました。それ以外の教科では、約8割の生徒が、肯定的な回答をしています。
- ・2つ目の各教科の思考力・判断力・表現力等の学習活動の状況を問う質問については、全ての学年、教科で肯定的な回答の割合が大阪府の平均値を上回っています。

* 肯定的な回答とは、選択肢のうちの「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」と回答した合計のことです。